

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きが十分にできていない児童がいる。 自分の思いを表現する力では、個人差が大きい。 発表したり、話をしたりすることは好きではあるが、的確に表現したり、友達や教師の話を聞いたりすることが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読の機会を増やし、ドリルやプリントなどを活用して、繰り返し練習させる。 学習内容に合わせて、様々な「表現」の方法を教え、自分に合った表現の仕方ができるようにする。【表現・発見】 ペア学習を通して他者の意見を知り、自らの学びを深める。また、他者の意見を聞くことで、話しを聞く姿勢を身に付けさせる。【対話】 読書の時間を意図的に設け、日常で活用できる語彙を増やす。授業の中では、相手に伝えるための表現方法を学ぶ活動を多く取り入れる。 	B	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念や構成が十分に理解できていない児童がいる。 文章題を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物に置き換えて説明をしたり、ブロック操作をしたりしながら計算をイメージできるようにする。 他者に説明する機会を設け、理解の定着を図る。【対話・表現】 文章題を具体物や図に表すことで、問題の内容をイメージさせる。 	B	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物の育ちの変化や成長について、気付くことはできるが、ワークシートに書き表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察するポイントを絞り視点を明確に示し、絵に描いたり、文章にしたりさせる。【発見・表現】 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカについては、「できるようにになりたい」という意欲が高いが、指使いや息の使い方を身に付けるまでに時間がかかる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書だけでなく、他の曲にも取り組み、指使い等の基本を指導しながら多くの曲が演奏できるという自信に繋げていく。 	B	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのり、クレヨン、絵の具等の基本的な道具をまだ上手に使いえない児童がいる。 想像して描いたり、自由に発想して作ったりする場面で、自分の思いを形にするのが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技法を習得できるよう、繰り返し指導を行い、様々な材料、材質を取り入れて経験を豊かにする。 導入時、作品のアイデアを引き出すために、見本の提示や、児童の考えの交流、分かりやすい授業の流れの板書等の工夫を行う。【対話・表現・決定】 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の運動経験の差から、走る、投げる、掴むといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。 学習には意欲的に取り組む一方で、器械運動系の運動遊びについては苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動きを取り入れた体づくり運動を取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。 「技能の習得」のみを目標にするのではなく、様々な体の動かし方、使い方を経験させ、運動に親しみ、楽しむことを中心に据えて取り組ませる。スモールステップでできたことを認め、小さな「できる」を増やし、自信をもたせていく。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章理解の話し合いで、感じたことや思いを話すことが苦手な児童がいる。 正しい表記を身に付け、順序を考えて書き表す力は個人差が大きい。 漢字を正しく読み、書くことが十分にできていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で話し合う学習形態を工夫したり、ICTの活用により書いて意見を交流する場をつくったりする。【対話】 文章の構成を考える場では、ICTを活用して試行錯誤ができるようにする。【決定】 漢字学習のソフトを活用したり、ゲーム化したりして、楽しく学習できるように工夫する。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を読んで立式することが難しい。 時刻と時間の関係、数の概念や構成が十分に理解できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを明確に提示し、絵や図に表す、ワークシートを用意するなど個に応じた指導の工夫をする。【発見】 ICTを活用し、児童が進んで繰り返し学習できるようにする。【発見】 	B	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察したものや見たものについて、気付くことはできるが、自分の思いや願いを表出することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動を見守り認めるとともに、スモールステップで思いや願いを聞き取りながら、表現できるように支援する。【発見】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌が好きで、意欲的に取り組むが、曲想を感じ取って表現を工夫するまでには至らない。 鍵盤ハーモニカを正しい指づかいで演奏することは個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを感じ取る場をつくる。【発表】 実際に音に出して確かめていく場を繰り返し設定する。【決定】 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを形にするのが難しい児童が多い。 のり、はさみ、絵の具など基本的な道具の使い方を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に表し方を工夫できるような指導計画や環境を設定する。導入時、作品のアイデアを引き出すために見本の提示や分かりやすい授業の流れの板書等の工夫を行う。【発見】 安全な使い方を十分に指導するとともに、用具を使うことから表現が広がるような指導を工夫する。【表現】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 経験の差から、走る、投げる、蹴るといった基本動作や柔軟性などの基本的な動きには個人差がある。 学習には意欲的に取り組むが、苦手を感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びへの不安を軽減する場の設定や、見通しのもたせ方を工夫する。【発見】 友達の良い動きを取り上げる。スモールステップでできたことを認め、小さな「できる」を増やし、自信をもたせていく。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の読み取りを苦手としている児童が多い。 漢字の習熟度に個人差が見られる。 書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用して、文の構成を視覚的に理解できるようにする。【発見】 デジタルコンテンツやプリントを活用して、個別の課題に応じて繰り返し漢字練習を行えるようにする。【決定】 作文や文章を書く際には、例文を提示したり、構成メモを使って書くことを整理したりする活動を取り入れる。【決定・表現】 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 四則演算の正確さが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書などを活用して、視覚的に理解できるよう指導する。また、文章から図や言葉で表す指導を増やしたり、互いの考えを交流させたりする。【発見・対話】 個別の課題に応じて四則演算の基本的な計算方法の確認と補充プリントによる習熟を行う。【決定】 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に興味がある児童が多いが、問題を解決するための方法を考えることが難しい児童がいる。 調べたり、観察したりしたことから、共通点や差異点を見付けることには、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な経験を基にして自分自身の疑問から問題作りができるようにする。また、課題解決には比較することが重要であることに気付かせ、実験は全員が取り組めるように教材の工夫をする。【発見】 実験では、ICT機器などを活用して結果を記録し、実験・観察の視点に沿って比較しやすくする。実験後はグループで結果考察をする時間を取り、共通点や差異点が見つけられるように進める。【発見・対話・表現】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの地域について、興味をもって取り組むことができるが、経験が少なく学んだことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 資料から読み取る力が弱い。また、読み取った内容から考察する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して、ワークシートへの書き込みの仕方や資料の読み方を視覚的に学習できるように工夫する。【発見・表現】 仕事の工夫や身の回りの安全についての疑問をもたせ、課題を解決する中で、互いの考えを発表し合い解決する。【対話・表現】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音を出すときのルールを身に付ける必要がある。 楽しく歌えているが、呼吸や発音に注意し、より自然で無理のない歌い方を定着させる必要がある。 リコーダーの基礎的な技能（タンギングや構え方）を確実に身に付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい合図や活動前の声掛けを徹底する。【決定】 不自然な発声方法で歌っている場合は、その都度発声方法を確認する。【発見・表現】 座席配置を工夫したり、教師が一人一人の課題を把握して個別指導をしたりする。【発見】 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 低学年での材料や用具の扱いの基礎を身に付けられている児童が多いが、材料や用具を使用した経験が少ない。 どの学習にも楽しんで取り組むことができるが、題材のめあてに合わせて、自分なりの表したいことを発想することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学年として材料や用具に広がりがあるので、新しく使用するものについての知識や使い方を分かりやすく指導したり、繰り返し使用したりして、経験を重ねられるようにする。【表現】 題材のめあてを制作途中でも確認し、めあてに合わせて主体的に学習に取り組めるようにする。【発見・対話・決定】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童がいる。 運動体験が少ないために、器械運動や投げる、蹴るなどの基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本の動画を見せ、「できるポイント」を視覚的に確認できるようにする。【発見・決定】 学習カードを作成し、児童同士が「できるポイント」がどの程度達成できているかを互いに確認し、スモールステップで自分ができるようになったことを実感できるようにする。【発見・対話・決定】 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が見られる。 作文など「書く」ことに苦手意識をもっている児童が多い。 説明文の読み取りでは、文章の要約や文の関連をつかむことが苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間にデジタルコンテンツやプリントを活用して練習する時間を設け、定着を図る。家庭学習として取り組み、定着を図る。 文章を書く前に例文を示したり、構成メモを使って書くことを整理したりする。【表現】 語句の意味や接続語や指示語に注目させ、文章の内容理解や文と文との関連についての理解を深められるように言葉を意識した授業を進める。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。自分の考えを的確に伝えられない児童が多い。 簡単な四則計算の暗算を身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の活用や具体物の提示など、視覚的に理解できるようにするとともに、他者との対話を通して自らの考えを深め、伝える力を育む。【発見・対話】 個別の課題に応じて四則演算の基本的な計算方法の確認とデジタルコンテンツや補充プリントによる習熟を行う。【決定】 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や生活経験を基に根拠立てて予想を立てることに課題がある。 観察や実験に興味がある児童が多いが、結果をまとめたり、考察したりすることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもって予想を立てることができるよう、共通体験の時間を設定する。また、既習事項や生活経験を想起させるような資料を提示し、それを基に解決方法を考えられるようにする。【発見・決定】 結果のまとめ方、考察の書き方を丁寧に確認し、グループで確認し合う時間を十分に取り、結果をまとめたり考察したりすることに抵抗感なく取り組めるようにする。【発見】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題について、興味をもって取り組むことができるが、調べたことのまとめ方に個人差がある。 資料から読み取ることや、読み取った内容から考察をしたりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる際の目的やまとめるためのポイントや視点について指導する。 ICTを活用して、資料（地図、写真等）などを提示し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取り組みをしていく。【対話・表現】 資料から読み取れる内容を明確にし、筋道立てて理解できるようにする。【発見】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽の技能の個人差がある。 音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席の配置を工夫したり、動画で運指を確認できるようにしたりすることで、不得手な児童を支援する。【発見】 音楽的要素や仕組みを覚悟し、その動きから音楽のよさや面白さを感じ取る曲に多く触れる。【発見・表現・決定】 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある。 集中して学習に取り組むことができるので、自分の発想から視野を広げて、自分の作品をよりよくするために取り組むことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の用具や材料を使用する時には、改めて実演を見せたり ICT を活用して分かりやすく確認をしたり、うまくできない児童には個別に指導をしたりしていくようにする。【表現】 授業の始まり・途中・終わりなど、学習の様々な場面で鑑賞を取り入れ、お互いの良さを認め合えるようにする。【発見・決定・表現】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童もいる。 器械運動では、基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 ボール運動での投げる力やバランスをとる力がまだ弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるように、ルールを工夫したり、簡単なゲームをしたりして興味をもてるようにする。児童に合った形で運動できるようにスモールステップで課題を設けるようにする。 自分の体の使い方を知る活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介したり、自分の様子を撮影したりして、イメージしやすくする。 様々な大きさや形のボールを投げる活動や体つき運動と関連させて、体のバランスをとる活動を増やす。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字の習熟が不十分である。また語彙の幅や言葉の使い方などの知識も、もう少し広がると良い。 文章を正しく読み取り、理解することに困難さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストなどドリル学習を行う。また、自己効力感をもって臨めるよう方略指導と振り返りも行っていく。【発見】 読解指導においては、読解方略及びメタ認知的方略指導を提示し、自分に合った読み方ができるようにする。【決定】 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算やわり算といった基礎的な計算力が十分に身に付いていない。 文章題で問われていることが何かを理解し、既習事項を活用することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習など作業的な学習は、カフトなどクイズ形式の学習アプリや計算練習ができるWEBアプリを効果的に活用して計算方法の確認と補充プリントによる習熟を行う。【決定】 文章を正しく読み取ることを意識するために、図や式などに表させたり、キーとなる言葉を意識させたりして課題が把握できるようにする。また、教師による意図的な発問等で促すようにする。【発見】 	C	C
理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象に興味をもち、適切に実験や観察の計画を立てることに困難さが見られる。 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、考察することに困難さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ具体物を提示できるようにし、要因計画を適切に用いることができるよう要因と水準を明確にする。【発見】 適切な考察のために、問題を意識できるよう板書を工夫するとともに、小集団で話し合える場面を設定する。【対話・表現】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 内容に興味をもち、グラフや表などの資料から、値の特徴を読み取り課題意識をもって学習に取り組むことに困難さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や身近な事柄を提示するとともに、明確な問題が発見できるよう資料をもとに話し合う場面等を弾力的に設定する。【発見・対話】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かしての学習に課題がある。 歌唱での美しい発音や強弱、ブレスなど、表現の工夫をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動を通して次の学習に関係のある既習事項を復習することでスムーズに学習に入れるようにし、学習に見通しをもつことができるように活動を提示する。【発見・決定】 表現の発表では積極的に参加できるよう、互いの表現のよさを認め合い、主体的に表現する活動の場を設定する。【対話・表現】 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができる児童が多いが、集中の続かない児童がいる。 用具や材料についての経験や技能に差があり、それらを活用して表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせるとともに、作り方の手順をスモールステップで教えて取り組ませたり、次にやることや終わった後にやることが視覚的に分かるようにしたりして、主体的に学習に取り組めるようにする。【発見】 既習事項については、改めてICT機器などを活用して使い方を確認したり、児童が互いに教え合ったりして、繰り返し学習の中で習得できるようにする。【表現】 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能で達成感のある調理や作品作りを設定していく。また、小集団で教え合えるように柔軟な場面を設定する。【対話・表現】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を見つけることが難しく、技や技術の向上に対する意欲が低い。 チームやグループで協力することや勝ち負けを素直に認めることに困難さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本の動画等を見たり、自分の動きを見て振り返ったりする機会を設けることで適切なフィードバックが得られるようICT機器や集団を活用する。【発見・対話】 その運動が得意な児童はチームのために何ができるかを考えること、苦手な児童は一生懸命な姿を見せることを価値付け、優劣ではなく良いパフォーマンスに達成感が得られるよう場面を設定する。【対話・表現】 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのやり取りを楽しみながら活動することはできる。素直に自分を表現することができない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指示が分からない、何を言えばいいかわからないなどの不安を持つ児童には、適宜日本語を活用してコミュニケーションを図れるようにする。【表現】 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすい文章で伝える力が不十分な児童がいる。 話し手の意図を捉えながら聞き、目的に応じて質問をすることが苦手な児童が多い。 文章の場面の様子から想像する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む教材の単元では、単元の初めの段階で一人一人が構成を考えて捉える活動を取り入れ、自分が書くときや話すときに生かせるようにする。【発見】 話し手の意図を意識しながら聞く姿勢をもたせる。さらに 尋ねるべきことを考えて質問させるようにする。【対話・決定・表現】 語句の意味や文のつながりを意識しながら人物像や全体像を想像したり、要旨を的確に捉えられたりするよう指導を充実させる。【発見】 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分数や小数の大小の比較や計算に課題がある児童が多い。 問題解決を自分の言葉で分かりやすく説明する力が十分でない児童が多い。 問題文の意味を捉え、筋道を立てて考えたり、既習事項を活用して問題を解決することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通分、約分が正しく速く処理できるように朝学習等を使い、計算練習を取り入れる。【発見】 習熟度に合わせ、文章の形式や構成例を示しながら文章で自分の考えをまとめられるようにする。【発見】 学習問題について、図、表、式を活用して内容の理解を深めたり、他者との対話を通して自らの考えを深めたりさせる。【発見・対話・決定】 既習事項を生かし、新しい知識・技能と関連付けて獲得できるように、複数の考え方を検討する。【発見・決定】 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 動物や植物の体のつくりとその働き、生物と環境との関わりについて、それらの仕組みや働きや関わりについて文で表現する力に課題がある。 生活経験から、問題に対する結果の予想を立てることができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の場面では、時間を十分に確保する。そして、なぜそうなるのかを、教科書などの資料や実験結果を参考にしながら記述したり、説明したりする活動を増やしていく。【決定・表現】 身近な自然の事象・現象に触れる機会を多く取り、気付いたことを焦点化しながら確認していく。【発見】 	A	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の知識の定着が難しい児童がいる。 提示した資料から読み取ろうとする意欲は高いが、読み取った事項について事実を元に理由を推測する力に課題がある。 読み取った事実から「自分ならこう考える」と、自分の意見につなげて考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めにこれまでの時代の出来事や人物について確認したり、友達に説明したりする活動を設定して定着を図る。【発見・対話】 複数の資料を比較して、資料から分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりする活動を多く設定していく。【決定・対話】 当時の人の気持ちを想像させ、資料の中のものをできるだけ自分たちに近いものとしてとらえさせる。【決定・表現】 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダー、鍵盤楽器などの基礎的な技能に個人差がある。 どのように表現したいか、自分の思いをもって表現を工夫することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで目標を設定し、達成する経験を多く積ませる。【発見・表現・決定】 思いや意図を明確にもって表現できるよう、適切な教材を選び、対話的な活動を通してさまざまな視点や表現方法に触れることで、自分自身の音楽表現をより豊かにしていく。【発見・対話・決定】 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い反面、予定の時間を終わっても完成できない児童がいる。 自分なりの表したいことを見付け、表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもって取り組むことができるようにタブレットを用いた学習の振り返り(APTN)を行い、自分の進捗を確認しながら学習を進めていくようにする。【発見・決定】 学習の導入で互いのアイディアを共有したり、 	B	B

令和7年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

	児童が多いが、発想の広がらない児童がいる。	作成の途中で鑑賞の時間を入れたりして、お互いの発想を共有できるようにする。【発見・対話】		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 学んだことを生活に生かそうとする意欲の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能を身に付け、達成感を実感できる調理や作品作りを設定していく。【発見・表現】 学んだことを家庭で実践できるように、こつや注意点を教える。【発見】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫することに課題がある。 各種運動に積極的に取り組み、場や用具の安全に留意できる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題に気付かせるよう、ICT機器を使って、自分の動きを振り返ることができるようにする。また、課題解決のための場を設定する。【発見・決定】 様々な領域の運動に親しめるように、グループ学習や運動の特性に応じた楽しさを味わえる活動を取り入れる。【対話・表現】 	B	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> リスニングにおいて知っている単語を聞き取ることはできるが、話の大体の内容を掴む力に課題がある。 アルファベットを使って書く力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習表現を使ったスモールトークを適宜入れながら外国語の表現に触れる機会を増やす。【発見】 書く活動を取り入れ、アルファベットを書く機会を確保する。【表現】 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。